

V. 選択科臨床研修プログラム

脳神経外科

- **研修責任者** 永井 睦
- **研修目標**
神経学的所見を正確にとれる。
緊急性を要する疾患、病態の見極めが出来るようになる。
- **行動・経験目標**
緊急で受診された意識障害の患者さんの鑑別診断および適切な処置ができることを目標とする。
- **研修スケジュール**
病棟での患者担当及び手術術者及び助手として研修する。

週間スケジュール

曜日	午 前	午 後
月	病棟回診	病棟カンファレンス 検査
火	病棟回診	病棟回診 リハビリカンファレンス
水	病棟回診	病棟回診
木	手術	手術
金	病棟回診	病棟回診
土	病棟回診	

整形外科

- **研修責任者** 清水健太郎
- **研修目標**
 - 1) 田舎の整形外科で学ぶ利点。
外傷、変性、奇形、腫瘍・・・老若男女多岐にわたる整形外科疾患にたいし、柔軟に対応できるセンスを高めるには、都会のように自動車も外傷も少ない(頸椎ねんざばかりみてもしかたがない)病院では役に立ちません。
 - 2) 実際にみた症例は忘れない。
解剖書と寝ろ、といわれてもやはり実際の骨や筋肉や神経をみたほうが効果バツグンです。最近の研修医はよく勉強しますが、外科系はやっぱり経験です。年 800 例と外科系最多の症例をこなす当科で、若いうちに整形外科の基礎の基礎を教えます。
 - 3) 脊椎、人工関節、外傷・・・症例豊富。
整形外科は病院によって得意不得意があります。当院は近隣と基幹病院であり、とくに脊椎は脊椎センターを開設するほど得意としており、これまで有能な脊椎外科医を多数輩出しています。その他、人工関節や、毎日のように救急車でかつぎこまれる骨折の手術もたいへん多く、ひろい分野の症例をみることが出来ます。

● 行動・経験目標

毎朝行われる外来でのカンファレンスで、実際の症例から、画像の診断学を教えます。X線、MRI、脊髓造影など、また外科ですので、糸結び、骨折整復などの基本手技を指導します。やる気のある研修医君には、主治医のひとりとして手術に挑戦してもらいます。(ちなみに過去の研修医君のなかには、骨折接合術を立派にやりとげた者もいました)

研修医には上級医がマンツーマンで基本手技の指導を行います。救急センター当番も受け持ちます。

医局員は医学部時代運動部経験者がおおく、有能かつ愉快な者ばかりですので、田舎の星になりたい諸君のお越しをお待ちしてオリマス。

皮膚科

● 研修実施指導者 田村政昭

● 研修目標

皮膚科疾患の的確な初期診断と基本的な手技の習得を目標とします。皮膚の病態生理を理解し、診断に必要な問診、診察と検査を行い、皮膚病変を観察し正確に記載するまでを目指します。基本的な検査法を実際におこなって、評価判定し、診断能力を身に付けます。また、診断に基づいた基本的な治療法について指導医のもとで研修します。

● 行動・経験目標

実際の入院、外来患者の診察にあたり、発疹学を学び、皮膚疾患の臨床像を把握することから、臨床像をふまえて、鑑別疾患を列挙し、検査立案、評価し、診断、治療を行うことを目標とします。

真菌検査、皮膚貼付試験、光線検査、皮膚生検などの基本的な検査法を指導医とともに実施、評価判定します。皮膚の病理組織像の基本を学び、皮膚腫瘍や代表的皮膚疾患における病理組織の理解を目指します。小手術や簡単な形成外科的手術を経験し、助手として活動できることを目標とします。液体窒素による凍結療法や鶏眼の切除など、皮膚科学的治療を習得できます。

耳鼻咽喉科

● 研修実施指導者 大久保啓介

● 研修目標

短期間で耳鼻咽喉科をローテートした場合に、今後の臨床に役立つと考えられることは、耳、咽頭、喉頭の観察力と考えています。当科では、電子スコープを用いた鮮明な画像を基に、耳鼻咽喉科、頭頸部領域の解剖、所見の取り方などの習得を、通常の外來診察を通して目指します。更に耳鼻咽喉科、頭頸部外科の手術への参画や、放射線科医との画像カンファレンス他院との合同カンファレンスに出席していただきます。さらに毎週行われている入院カンファレンスでは、簡潔で的を射たプレゼンテーションを身につけるよう、積極的にプレゼンを行っていただきます。

● 行動・経験目標

外来業務は、上級医と2人で患者の診療にあたります。午後の専門外来では、実際にエコーガイド下FNA(主に甲状腺疾患)、喉頭及び食道ファイバースコープ、ENGによるめまいの精査、嚥下機能検査などに携わり、実際に検査機器に触れて、可能なかぎり研修医自ら行っていただきます。

手術(毎週水・金の午後)は、簡単な手術介助から、本人の積極性に合わせて、より踏み込んだ操作を担っていただくことも考えております。

毎週木曜日、常に新しい論文に目を通しておくことを目的とした抄読会が行われております。1回、抄読会において発表をしていただきます。

画像カンファレンスは、毎週行われている院内カンファレンスと、月に一度行われている宇都宮でのカンファレンスがあります。毎回、治療に苦慮している疾患に対し、積極的な討論が行われております。